※令和３年度以前入学生用

学校番号	C2101

令和５年度　家庭科

科目	子どもの発達と保育	単位数	３	必要Ｓ出席数	６
使用教科書	子どもの発達と保育　新訂版　（実教出版）				
副教材等	なし				

	年間	１範囲	２範囲	３範囲
レポート	９枚	３枚	３枚	３枚
スクーリング	１５回	５回	５回	５回
テスト	２回	○	×	○
課題・実習等	実習を年間２回実施		実習あり	実習あり

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・子どもの育ちについて学び、どうしたらいきいきと成長していくことができるのかを考えます。
・レポートは教科書を活用して取り組み、提出期日までに提出しましょう。
・スクーリングでは、レポートの内容をより深く理解できるよう講義を行います。
・テストはレポートの問題から出題されます。
・スクーリングと併せてＮＨＫ高校講座などメディアを視聴学習し、より理解を深めましょう。

２　学習の到達目標

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの発達や子育て支援について関心をもち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見いだし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身に付けている。	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身に付けている。
評価方法	・記述の点検（レポート）	・記述の点検（レポート）	・観察（スクーリング） ・記述の点検（レポート）	・記述の確認及び分析（スクーリング） ・定期考査

● 学習指導要領（第１章第７款の４）に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除（面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除）の制度を活用する。
● 学年末に５段階で評価する。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

範囲	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
Ⅰ	子どもの発達の特性、発達の過程	①　発達と乳幼児期の意義 ②　発達と保育環境 ③　児童観と発達観 ④　子どもの発育 ⑤　子どもの精神発達 ⑥　人間関係の発達	○	○	○	○	a.　人間の発達について，自分自身の問題として考える姿勢をもっている。 b.　人間の一生をライフサイクルとしてとらえ，人とのかかわりがいかに大切かを認識している。 c.　乳幼児の生理的特徴が成人と大きく異なることを具体的に説明できる。 d.　子どもの成長は身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。	・レポート ・定期考査
Ⅱ	子どもの生活	①　生活と養護 ②　子どもの遊び ③　生活習慣の形成	○	○	○	○	a.　子どもは保育者の養護なしでは生きていけないということを理解し，保育者としての責任を自覚しながら学習しようという姿勢がある。 b.　乳幼児期の基本的生活習慣や社会的生活習慣の習得について，その意義や重要性を認識している。 c.　幼児食をつくることができる。 d.　少子・高齢化社会では社会全体で子育てに携わる必要性があるということを理解している。	・レポート
Ⅲ	子どもの保育、福祉	①　健康管理と事故防止 ②　保育の意義と重要性 ③　家庭保育と集団保育 ④　保育の方法 ⑤　子どもの福祉 ⑥　子育て支援	○	○	○	○	a.　現代の保育や家庭を取り巻くさまざまな課題について，問題意識を感じながら学習を深めている。 b.　家庭と保育所・幼稚園が信頼し合い，協力して子どもを育てることの大切さを認識している。 c.　子どもの幸福の実現に必要な児童福祉について，法律や制度の整備面から考察することができる。 d.　児童福祉を実現するための法律・制度について理解している。	・レポート ・定期考査

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解